

授業科目(ナンバリング)	専門演習 IA (CF201)			担当教員	井上 英也 (実務家教員)								
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・前期	必修・選択	必修						
授業のねらい							アクティブラーニングの類型						
本学の建学の理念にあるホスピタリティは、人と人を結びつける重要な素養として、国際化、多様化が進む企業活動においても広く取り入れられています。本演習は、ホスピタリティ産業の先端であるホテルの研究を通じて、“感じる力”“考える力”“表現・行動する力”を養い、将来の観光産業のリーダーを育成することをねらいとします。授業は、個人・グループによる研究、討議、発表により学びを深めます。							②④ ⑥⑦						
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標			評価手段・方法	評価比率								
専門力	地域観光の核となる宿泊業の役割を理解し、個々のホテル、旅館について、ビジネス、顧客、社員の観点から評価ができる。			課題レポート	10%								
情報収集、分析力	常に新聞や雑誌に掲載される最新のホテル関連記事や情報を収集し、世界および我が国のホテル業の潮流について自分なりの見識を持つことができる。			授業への積極姿勢	30%								
コミュニケーション力	課題に積極的に取り組み、自分の考えを説明することができる。また、パワーポイントを使って説得力のあるプレゼンテーションをすることができる。			授業への積極姿勢 プレゼンテーション	40%								
協働・課題解決力	ホテル視察、研究において、自分の役割を設定し、グループに貢献することができる。また、課題に対する新たなチャレンジに果敢に挑戦することができる。			授業への積極姿勢 現場視察への積極姿勢	10%								
多様性理解力	外国人旅行客が地域のホテル・旅館・観光全般に求めることを理解し、改善策を提言することができる。			プレゼンテーション	10%								
出席				受験要件									
合計				100%									

評価基準及び評価手段・方法の補足説明

- ① 「授業への積極姿勢」は、授業中の態度、発言・質問の頻度とレベルをもとに評価する。
- ② 「課題レポート」は提出時期（30%）内容の論理性・独自性（50%）文章構成力・形式要件（20%）で評価する。
- ③ 「プレゼンテーション」は、内容とともに、情報ツールの活用能力、発表態度などをもとに評価する。
- ④ 「現場視察への積極姿勢」は、事前準備、視察中の態度、事後のグループワークのとりまとめなどをもとに評価する。

尚、評価のフィードバックは、授業内外で都度おこなう。

授業の概要

近隣ホテルの視察、研究を通じ、ホテル運営全般の理解を深める。また、福岡、沖縄など地域ごとに様々なカテゴリーのホテルを研究する。個人またはグループの研究は、プレゼンテーションを通じて他のメンバーと成果を共有しながら授業をすすめる。また、授業の理解度をポートフォリオのレスポンやイマキクを利用して確認する。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。

教科書・参考書

教科書：特になし / 参考書：演習時に提示する 指定図書：「真実の瞬間」ヤン・カールソン

授業外における学修及び学生に期待すること

- ①ホテル・旅館など宿泊産業の情報に興味を持ち、書籍及び新聞、テレビ、雑誌などメディアから積極的に入手する。
- ②ゼミのチームメンバーとは、協力して授業外の研究活動を行う。
- ③「宿泊業論」・「ホテルオペレーション」・「ブライダルマネジメント」など関連の科目を履修し、理解を深める。
- ④近隣地域の観光イベントに興味を持ち、積極的に参加する。
- ⑤国際的な情勢に关心を持ち、学内・学外を問わず、積極的に異文化交流を行う。

回	テ　ー　マ	授　業　の　内　容	予習習・復習
1	オリエンテーション ホテル業の概要	メンバーおよび教員の自己紹介、今後の演習の進め方をシラバスに基づいて詳しく説明する。 現在の日本と世界のホテル業界の動向を学ぶ。	(予習) シラバスを読んでおく
2	個人目標の設定	個人目標を設定するための面談を実施する。	(予習) 本ゼミにおける個人の目標を考えておく
3	ホテル視察 I	ハウステンボス・佐世保周辺のフルサービス型ホテルを視察する。(ホテルアムステルダム予定)	(予習) ホテルアムステルダムについてウェブサイトで調べておく
4	ホテル視察 I の振り返り 客室部門の理解	視察した内容を、グループごとに討議し、発表する。 ホテルの客室部門に関する基礎を理解する。	(予習) 視察した内容をまとめておく
5	ホテル視察 II	ハウステンボス・佐世保周辺のフルサービス型ホテルを視察する。(ホテルオークラ JR ハウステンボス予定)	(予習) ホテルオークラ JR ハウステンボスについてウェブサイトで調べておく
6	ホテル視察 II の振り返り レストラン部門の理解	視察した内容を、グループごとに討議し、発表する。 ホテルのレストラン部門に関する基礎を理解する。	(予習) 視察した内容をまとめておく
7	ホテル視察 III	ハウステンボス・佐世保周辺のフルサービス型ホテルを視察する。(ホテルヨーロッパ予定)	(予習) ホテルヨーロッパについてウェブサイトで調べておく
8	ホテル視察 III の振り返り 宴会・婚礼部門の理解	視察した内容を、グループごとに討議し、発表する。 ホテルの宴会・婚礼部門に関する基礎を理解する。	(予習) 視察した内容をまとめておく
9	ホテル試泊 長崎県内のホテルを試泊	長崎県内のホテルに宿泊し、ホテル館内の視察を通じて、ホテルのインスペクションを行う。 (ANA クラウンプラザ長崎グラバーヒル予定)	(予習) ANA クラウンプラザ長崎グラバーヒルについてウェブサイトで調べておく
10	ホテル試泊に関する プレゼンテーション	試泊によりインスペクションした結果について、グループごとに討議し、発表する。	(予習) 試泊した内容をまとめておく
11	ウェディング施設 視察	佐世保周辺のウェディング施設を視察する。 (ハーバーテラス SASEBO 迎賓館予定)	(予習) ハーバーテラス SASEBO 迎賓館についてウェブサイトで調べておく
12	ウェディング施設視察の 振り返り 婚礼業界の理解	視察した内容を、グループごとに討議し、発表する。 ウェディング・ビジネスに関する基礎を理解する。	(予習) 視察した内容をまとめておく
13	博多地域 ホテル研究 シティ・ホテルの概要理解	博多周辺の大手ホテルチェーン傘下のホテルに関し、ブランドごとの特徴を理解する。	(予習) 博多地域にある大手ホテルチェーンのホテルを調べておく
14	沖縄地域 ホテル研究 リゾートホテルの概要理解	沖縄にあるリゾートホテルの地域および各ホテルの特徴を理解する。	(予習) 沖縄にあるリゾートホテルを調べておく
15	専門演習 IA のまとめ	学んだことをグループごとにとりまとめ、発表する。	(予習) グループ発表の準備をする

回	テー マ	授業の内 容	予習・復習
1	オリエンテーション	専門演習の進め方・目標について理解する。	予習：シラバスを読む 復習：卒業研究章立て
2	前学期の省察と本学期の目標設定	ゼミ担当教員と相談しながら、前学期の省察を行い、それを基に本学期の目標設定について確定する。	予習：前学期の省察と本学期の目標設定の下書き 復習：本学期の目標設定の清書
3	卒業研究の説明	卒業研究の書き方の説明。	予習：卒業研究の準備 復習：今回の復習
4	卒業研究の指導	卒業研究の章立てをする。	予習：章立ての準備 復習：今回の復習
5	卒業研究の指導	卒業研究の章立ての指導。	予習：章立ての準備 復習：今回の復習
6	卒業研究の指導	卒業研究の文献涉獵を行う。	予習：文献涉獵の準備 復習：今回の復習
7	卒業研究の指導	卒業研究の文献涉獵を行う。	予習：文献涉獵の準備 復習：今回の復習
8	卒業研究の指導	卒業研究の文献涉獵を行う。	予習：文献涉獵の準備 復習：今回の復習
9	卒業研究の指導	卒業研究の先行研究の書き方の説明。	予習：先行研究の準備 復習：今回の復習
10	卒業研究の指導	卒業研究の先行研究を纏める。	予習：先行研究の準備 復習：今回の復習
11	卒業研究の指導	卒業研究の先行研究を纏める。	予習：先行研究の準備 復習：今回の復習
12	卒業研究の発表	卒業研究の進捗状況をプレゼンテーションする。	予習：口頭発表の準備 復習：口頭発表の反省
13	卒業研究の発表	卒業研究の進捗状況をプレゼンテーションする。	予習：口頭発表の準備 復習：口頭発表の反省
14	卒業研究の提出と添削	添削された卒業研究を修正する。	予習：課題の修正 復習：課題の修正
15	前期課題の受理	前期のまとめとして、修正した研究成果を提出する。	予習：課題提出準備 復習：文献・資料の整理

回	テ　ー　マ	授　業　の　内　容	予習・復習
1	オリエンテーション、前学期の省察と本学期の目標設定	自己紹介、前学期の省察と本学期の目標設定、ゼミの進め方についての説明、輪読①担当決定	予習：前学期の省察と本学期の目標を考えておく。トレーニングについての本を1冊読んでおく。 復習：省察と目標の確認。ゼミ内容の全般的な確認。
2	輪読①	力学的原理・関節の構造について、輪読②担当決定	予習：身体の力学的な原理や構造を調べておく。 復習：特に身体の構造を確認しておく。
3	実技①	ストレッチの実践	予習：ストレッチの方法を調べておく。 復習：自宅で実施した内容を再度行う。
4	輪読②	骨・骨格筋の構造について、輪読③担当決定	予習：骨や骨格筋の構造について調べておく。 復習：主立った筋肉や骨の名前を覚える。
5	実技②	自体重による筋力トレーニングの実践	予習：本や雑誌で、自体重トレーニングを把握しておく。 復習：1日に1回はトレーニングして身につける。
6	輪読③	筋収縮について、輪読④担当決定	予習：筋収縮について概要を調べておく。 復習：収縮のメカニズムをしっかりと覚える。
7	実技③	体幹トレーニングの実践	予習：体幹トレーニングの種類を調べておく。 復習：自宅で実施したトレーニング内容を再度行う。
8	輪読④	筋の組成・筋繊維タイプについて、輪読⑤担当決定	予習：筋肉の組成や筋繊維タイプを調べておく。 復習：筋線維の名称を数通り覚える。
9	実技④	ウォーキング(インターバル速歩)の実践	予習：インターバル速歩について調べておく。 復習：日常の歩きの中で実践してみる。
10	輪読⑤	骨格筋・運動神経系について、輪読⑥担当決定	予習：人間の神経の構造について調べておく。 復習：神経の種類の基礎的な部分を覚える。
11	実技⑤	Long Slow Distance の実践	予習：有酸素トレーニングの種類を把握しておく。 復習：週に1回はトレーニングして、体力向上にも努める。
12	輪読⑥	ガス交換について、輪読⑦担当決定	予習：心肺機能について概要を調べておく。 復習：ガス交換について、説明できるようにメカニズムをしっかりと覚える。
13	実技⑥	インターバルトレーニングの実践	予習：有酸素トレーニングの種類を調べておく。 復習：自身の種目の中に取り入れて再度実践してその効果を確認する。
14	輪読⑦	エネルギー産生について	予習：エネルギー供給機構を調べ、概要を知っておく。 復習：3つのエネルギー供給機構について正確に説明できるよう繰り返し学習する。
15	実技⑦	HIIT(タバタプロトコル)の実践	予習：HIITについて動画を見て概要を確認しておく。 復習：自分の種目に応じたプロトコルの使用法を考え、実践する。

回	テー マ	授業の内 容	予習・復習
1	イントロダクション	この科目の目的と目標、ならびに学習スケジュールを確認する。	(予習) シラバスの内容を理解し、質問に答えられるようにしておくこと。 (復習) 指定された資料を収集し、次回に持参すること。
2	省察	1年後期の学修成果を省察し、後期の個人目標設定のための面談を実施する。	(予習) 対象観光地の歴史とアクセスを調べる。
3	事前準備 1	①三川内焼の概要、②三川内へのアクセスについての調査結果の報告	(予習) 自分で集めた情報ならびに配布された情報を読み、内容を理解しておく。
4	事前準備 2	①陶磁器の製作方法、②部分の名称についての調査結果の報告	(復習) 指示された事項の説明を箇条書きのリストにし、次回提出する。
5	事前準備 3	フィールドワークのスケジュール決定	(予習) 演習で提示できるようにスケジュール案を作成する (復習) スケジュール通りに実施するための確認をする。
6	フィールドワーク実施	フィールドワークの実施	(復習) 次回での報告に向け、調査メモを整理し、印刷する。写真・動画は報告に使うものを絞り込んでおく。
7	フィールドワーク ふりかえり 1	フィールドワークの報告（速報）	(予習) 5分程度の報告メモを作成・印刷する。 (復習) 各人の報告のよかったところをメモにまとめ、次回提出する。
8	文献講読 1	中国の陶磁器の歴史	(予習) 所定の資料の要約 (復習) 「速報」に追加する内容を、次回で提出する。
9	文献講読 2	朝鮮の陶磁器の歴史	
10	文献講読 3	三川内焼の特徴	
11	文献講読 4	佐世保と三川内の観光の現状	
12	フィールドワーク ふりかえり 2	①第8週～第11週の学習内容を「速報」に反映させたプレゼンテーションを作成する。	(予習) プレゼンの作成 (復習) 見つかった改善点を考慮してプレゼン資料を修正し、次回で提示する。
13	フィールドワーク ふりかえり 3	②プレゼンテーションの内容を、リーフレット（A4版1ページ）にまとめる。	
14	ゼミ内発表会	①各ゼミ生によるプレゼンテーション（3分間） ②リーフレット ①・②とも「分かりやすさ」に留意し、相互に評価する。	(予習) プレゼンの練習 (復習) ①プレゼンの評価、②目標到達状況の確認
15	全体のまとめ	①この科目で学習した内容のふりかえり、②所期の目標に到達したか、③後期に向けての改善点、④次の調査対象地の検討、⑤期末レポートの指示	(予習) 三川内焼についてのさらなる調査事項のリストを用意する。

授業科目(ナンバリング)	専門演習 IA (CF201)			担当教員	田中 誠					
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・前期	必修・選択				
授業のねらい						アクティブラーニングの類型				
<ul style="list-style-type: none"> 身近な内容に関して、英語で表現できるようになり、多文化共生社会において交流することができる。 特定のテーマに関して、自ら事前に調べ発表することで学びや知識を深め、様々な問題解決に役立つ思考や判断をすることができる。 TOEIC の基礎的な内容を理解し、それを実際のコミュニケーションに活かすことができる。 						①⑥				
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率				
専門力	TOEIC 450 点レベルの語法問題を概ね解くことができる。				・テスト	25%				
情報収集、分析力	基礎レベルの問題の情報収集、及び解決のための思考・判断能力を身につけ、その内容を発表することができる。				・受講者の発表	30%				
コミュニケーション力	(1) 基礎的なコミュニケーションのために必要な知識を理解し、コミュニケーションがうまくいかない場合は、なぜうまくいかないのかを説明することができる。 (2) コミュニケーション力をつけるための課題英文を適切に書くことができる。				(1) 受講者の発表 (2) 課題	25% 20%				
協働・課題解決力										
多様性理解力										
出席					受験要件					
合計					100%					

評価基準及び評価手段・方法の補足説明

1. 毎回、コミュニケーション力をつけるための英文音読筆写の課題を提出してもらう。また、そのフィードバックは課題提出時にその都度行う。
 2. 14回目に30分のテストを実施。テスト内容はTOEICの形式とする。テスト後はポートフォリオでフィードバックを行う。
 3. 担当箇所の発表内容を評価の対象とする。準備不足の学生は減点となる。

授業の概要

英語と日本語の実際の場面で使用される様々な表現を学ぶとともに、与えられたテーマに関して議論し、理解を深める。また、TOEICの基礎を学ぶ。（コースの指定は特にしない。）
この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。

教科書 · 參考書

教科書:『英検準1級 英作文問題完全制覇』 ジャパンタイムズ。及び、プリント配布。

参考書：『新 TOEIC TEST 出る単特急 金のフレーズ』 TEX 加藤（著）、朝日新聞出版。

『新 TOEIC TEST 入門特急 とれる 600 点』 TEX 加藤（著）、朝日新聞出版。

指定図書:『英語はもっと科学的に学習しよう』 白井恭弘(著)、中央出版。

授業外における学修及び学生に期待すること

コミュニケーション能力向上のために自ら学ぶという努力をしてもらいたい。この演習は、自ら学ぼうとする学生向けの内容となっている。英語と日本語双方の言語に関して、コミュニケーション能力の向上を目指し、ハイレベルな内容を取り扱うので、英語力と日本語力の両方がないと授業についていくのは難しい。特に、留学生は日本語能力がN1レベルないと授業内容を理解するのは難しいであろう。毎回、課題も出るので、一生懸命学ぼうと努力する必要があることを理解して履修すること。また、長期インターンシップに参加する学生を歓迎する。

回	テ　マ	授　業　の　内　容	予習・復習
1	オリエンテーション	ゼミがスムーズに運営できるように、オリエンテーションを行う。英語の習得方法、本専門演習の意義などについて	予習：TOEIC の最新情報について調べる 復習：音読筆写
2	前学期の省察と本学期の目標設定・面談	前学期の省察を行い、それを基に本学期の目標を設定する。面談の実施	予習：前学期の省察と本学期の目標設定の下書き 復習：本学期の目標設定の清書
3	「イメージでつかむ」前置詞	前置詞のイメージ、翻訳研究、ディスカッション TOEIC 問題	予習：TOEIC 1-10 について調べる 復習：英文 1-10 音読筆写
4	1つに決まる the	冠詞のイメージ、ディスカッション、TOEIC 問題、翻訳研究	予習：TOEIC 11-20 について調べる 復習：英文 11-20 音読筆写
5	導く that を使いこなす	導く that のイメージ、ディスカッション、TOEIC 問題、翻訳研究	予習：TOEIC 21-30 について調べる 復習：英文 21-30 音読筆写
6	自分の意見を言う①	効果的なグループディスカッションについて学ぶ①。 (レベル 1)、ディスカッション、TOEIC 問題、翻訳研究	予習：TOEIC 31-40 について調べる 復習：英文 31-40 音読筆写
7	迫ってくる「現在完了」	ディスカッション、TOEIC 問題、翻訳研究、現在完了のイメージ	予習：TOEIC 41-50 について調べる、小テスト準備 復習：英文 41-50 音読筆写
8	躍動する「進行形」	進行形のイメージ、ディスカッション、TOEIC 問題、翻訳研究	予習：TOEIC 51-60 について調べる 復習：英文 51-60 音読筆写
9	すべての-ing は躍動する	躍動する-ing 形のイメージ、ディスカッション、TOEIC 問題、翻訳研究	予習 TOEIC 61-70 について調べる 復習：英文 61-70 音読筆写
10	未来を表す表現	ディスカッション、TOEIC 問題、翻訳研究、未来表現の方法	予習：TOEIC 71-80 について調べる 復習：英文 71-80 音読筆写
11	助動詞を使いこなす	助動詞の使い方、ディスカッション、TOEIC 問題、翻訳研究	予習：TOEIC 81-90 について調べる 復習：英文 81-90 音読筆写
12	自分の意見を言う②	効果的なグループディスカッションについて学ぶ②。 (レベル 1)、ディスカッション、TOEIC 問題、翻訳研究	予習：TOEIC 91-100 について調べる 復習：英文 91-100 音読筆写
13	過去形が「過去じゃない」とき	過去形のイメージ、ディスカッション、TOEIC 問題、翻訳研究	予習：TOEIC 101-110 について調べる 復習：英文 101-110 音読筆写
14	仮定法を使いこなす、テスト	英単語もイメージで、ディスカッション、TOEIC 問題 テスト実施、翻訳研究	予習：試験の準備学習、 復習：音読筆写
15	まとめ	休暇中の学びについて、ディスカッション、TOEIC 問題、翻訳研究	予習：TOEIC 111-120 について調べる 復習：英文 111-120 音読筆写、振り返り

授業外における学修及び学生に期待すること			
授業外における学習 ：様々なスポーツについて、興味関心をもって観察し、各種スポーツの特性や可能性からスポーツの意義や価値を考える習慣ができるように、授業外でスポーツ現場やテレビ等の様々なメディアを活用して情報収集することを望みます。			
学生に期待すること ：スポーツの魅力を伝えることができる人になってほしい。そのためには、本演習に誠実な態度を取り組み、責任ある社会人として魅力ある人間性を身につけることを望んでいます。また、ゼミ生にはキッズ・ジュニアスポーツ指導ボランティアなど学外実習の積極的な参加を望みます。			

回	テ　ー　マ	授　業　の　内　容	予習・復習
1	オリエンテーション	・演習授業の進め方についての説明 ・メディアリテラシー（連絡網作成） ・自己紹介と他己紹介	予習：シラバスを熟読し理解する 復習：受講規則の確認
2	本学期の目標設定	・コミュニケーションワーク（情報交換） ・メディアリテラシー（メール設定） ・前学期の省察を行い、目標を設定	予習：前学期の省察 復習：本学期の目標を確認
3	新体力テスト①	・新体力テストの意義と実践	予習：新体力テスト実施要項の確認 復習：テスト結果をもとに体力向上のための生活習慣を整える
4	新体力テスト②	・新体力テストの実施と記録①	予習：測定手順の確認と身体づくり 復習：テスト結果をもとに体力向上のための生活習慣を整える
5	新体力テスト③	・新体力テストの実施と記録②	予習：測定手順の確認と身体づくり 復習：テスト結果をもとに体力向上のための生活習慣を整える
6	コミュニケーションスキル①	・自分の考えを「伝える力」 ・コミュニケーションワーク（スポーツをはじめるきっかけ）	予習：円滑なコミュニケーションの方法について調べる 復習：日常の会話で「伝える力」を意識し実践する
7	コミュニケーションスキル②	・他者の考えを「聴く力」 ・コミュニケーションワーク（スポーツキャリア）	予習：円滑なコミュニケーションの方法について調べる 復習：日常の会話で「聴く力」を意識し実践する
8	スポーツ体験① 運動遊び	・コミュニケーションワーク（交流） ・メディアリテラシー（文字入力）	予習：運動を楽しむための手法を調べる 復習：楽しい運動遊びの立案
9	スポーツ体験② レクリエーション スポーツ	・コミュニケーションワーク（協働） ・メディアリテラシー（タイピング練習）	予習：レクリエーションスポーツの意義を調べる 復習：選択したレクリエーションスポーツの実践
10	スポーツ体験③ ボールゲーム	・コミュニケーションワーク（チームビルディング） ・メディアリテラシー（アプリ活用）	予習：ボールゲームの特性を調べる 復習：誰もが楽しめるボールゲームの立案
11	スポーツ指導体験①	・コミュニケーションワーク（共有） ・メディアリテラシー（図の描画）	予習：選択したスポーツの指導案作成 復習：指導実践の振り返りと改善
12	スポーツ指導体験②	・コミュニケーションワーク（ミーティング） ・メディアリテラシー（エクセル計算）	予習：選択したスポーツの指導案作成 復習：指導実践の振り返りと改善
13	スポーツ指導体験③	・コミュニケーションワーク（ディスカッション） ・メディアリテラシー（表の作成）	予習：選択したスポーツの指導案作成 復習：指導実践の振り返りと改善
14	トレーニング実践	・コミュニケーションワーク（調和） ・メディアリテラシー（文書作成） ※課題レポート（提出期限：15回授業の前日）	予習：選択した専門スポーツについての調査 復習：専門スポーツに応じたトレーニング実践
15	総合復習	・コミュニケーションワーク（交流） ・課題レポートのフィードバック ・総合復習	予習：これまでの活動の振り返り 復習：活動を振り返り、スポーツの意義を再確認する

授業科目(ナンバリング)	専門演習 IA(CF201)			担当教員	大井田 かおり (実務経験のある教員)							
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2年・前期	必修・選択	必修					
授業のねらい							アクティブラーニングの類型					
人間は多くの情報を「視覚」から得ています。観光にとって「視覚」は重要な位置を占めます。ここでは、観光における「視覚伝達」について考察します。一方視覚の不自由な方もいらっしゃるので、そうした方々の観光についても考え、ツアーを企画してみます。							①③⑤					
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標					評価手段・方法	評価比率					
専門力	観光における視覚の重要性を把握すると共に、視覚に配慮した観光戦略を立てることができる。					・授業態度 ・課題作品	5% 5%					
情報収集、分析力	論文、書籍、インターネット等を活用し、収集した情報の深い分析ができる。データの基礎的な数学的処理が行える。					・課題作品	25%					
コミュニケーション力	ハンディを持つ方や外国人への配慮ができる。誰にでも見やすいプレゼンテーションや動画で意見発表ができる。					・課題作品 ・授業態度	30% 10%					
協働・課題解決力	障がいを持った方や、異文化の方々と協調でき、そうした人々のための配慮ある観光を考えることができる。					・課題作品	10%					
多様性理解力	人間の多様性に理解を示し、すべての人がわかりやすいデザインをし観光に貢献できるような知識を身につけることができる。					・授業態度 ・課題作品	10% 5%					
出席						受験要件						
合計						100%						

評価基準及び評価手段・方法の補足説明

プレゼンテーション・動画・レポート等の課題作品(75%)、授業態度(25%)により総合的に評価します。授業態度は、他人の発表に対し、的確な質問やコメントができるかが評価の基準です。フィードバックは授業中もしくはポートフォリオで行います。レポート等の提出はポートフォリオで行います。

授業の概要

与えられた課題について、プレゼンテーションや発表を行う。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とします。

教科書・参考書

教科書&参考書：その都度指示します。

指定図書:『iPhoneで作ろう ビジネス動画の教科書』インプレス ※撮影のコツについて詳しく書かれているので、Androidの人でもかまいません。

授業外における学修及び学生に期待すること

普段から様々な観光パンフレットや標識などを目にすると、「こうした方が見やすいのでは」ということに気を配るようにして下さい。レジュメやPowerPointを作成する時でも、中高年が苦手な小さい字は避けるなど、配慮するようにしましょう。

回	テ　ー　マ	授　業　の　内　容	予習・復習
1	前学期の省察と今学期の目標設定	前学期の省察を行い、それを基に本学期の目標を設定する。	前学期の省察と本学期の目標を整理しておく。
2	ユニバーサルツーリズム 1	観光における視認性に着目したユニバーサルデザインについて学ぶ。	ユニバーサルデザインとは何かを調べておく。
3	ユニバーサルツーリズム 2	視覚障がい者の観光について考え、観光戦略を練る。	視覚障がい者の観光がどういうものか調べておく。
4	宙ツーリズム	宙ツーリズムとその可能性について考察する。	宙ツーリズムはどんな種類があるかを調べておく。
5	プラネタリウム見学	ドームシアターの一つであるプラネタリウムを見学し、観光の可能性を考察する。	プラネタリウムとはどのような施設であるかについて調べておく。
6	スマートフォンを使用した動画作成法 1	スマートフォンを使用した動画作成法を学ぶ。	スマートフォンを使用した観光作成法を確認しておく。
7	スマートフォンを使用した動画作成法 2	スマートフォンを使用した動画を発表する。	スマートフォンを使用した観光動画発表の準備をしておく。
8	PowerPoint を使用した観光動画作成 1	PowerPoint を使用した動画作成法を学び、観光動画を作成する。	PowerPoint を使用した動画作成法を調べておく。
9	PowerPoint を使用した観光動画作成 2	PowerPoint を使用して作成した観光動画を発表する。	PowerPoint を使用した動画発表の準備をしておく。
10	ユニバーサルツーリズムによるアウトバウンドツアー企画 1	ユニバーサルツーリズムによるアウトバウンドツアーについて考察する。	アウトバウンドツアー案を考えておく。
11	ユニバーサルツーリズムによるアウトバウンドツアー企画 2	ユニバーサルツーリズムによるアウトバウンドツアーを計画し、プレゼンテーションする。	アウトバウンドツアー案についてのプレゼンテーションの準備をしておく。
12	ユニバーサルツーリズムによるインバウンドツアー企画 1	ユニバーサルツーリズムによるインバウンドツアーについて考察する。	インバウンドツアー案を考えておく。
13	ユニバーサルツーリズムによるインバウンドツアー企画 2	ユニバーサルツーリズムによるインバウンドツアーを計画し、プレゼンテーションする。	インバウンドツアー案についてのプレゼンテーションの準備をしておく。
14	論文をレビューする 1	観光論文の分析とレビューの仕方について学ぶ。	論文を読むことによって、文体に慣れておく。
15	論文をレビューする 2	各自が関心ある分野の論文を読み、実際にレビューしてみる。	観光論文を読み、レビューする準備をしておく。

授業科目(ナンバリング)	専門演習 IA (CF201)			担当教員	落合 和昭 (実務家教員)					
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・前期	必修・選択	必修			
授業のねらい							アクティブラーニングの類型			
ホスピタリティは、観光事業全般において、定性的な影響をもたらすのみならず、定量的な効果をも生み出すことが広く認識されています。従って本演習では、①ホテルは複数の仕事や商品から成り立っていることが多いため、その全体を理解します。②ホテルには複数のステークホルダー（利害関係者）がいます。ホテルがそれらに与える影響を意識します。これらにより、将来のホテル事業を牽引する人材を育成することをねらいとします。授業は、個人・グループによる研究、討議、発表により学びを深めます。							②④ ⑥⑦			
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標			評価手段・方法		評価比率				
専門力	ホテルにおける主な業務を部門別に理解し、相互に及ぼす影響に関しても想像することができる。			課題レポート		10%				
情報収集、分析力	最新のホテル関連記事や情報を収集し、感染症対策などホテル業の潮流について自分なりの見識を持つことができる。			授業への積極姿勢		30%				
コミュニケーション力	課題に積極的に取り組み、自分の考えを説明することができる。また、パワーポイントを使って説得力のあるプレゼンテーションをすることができる。			授業への積極姿勢 プレゼンテーション		40%				
協働・課題解決力	ホテル視察、研究において自分の役割を設定し、グループに貢献することができる。また、感染症の影響など、課題に対する新たなチャレンジを提案することができる。			授業への積極姿勢 現場視察への積極姿勢		10%				
多様性理解力	外国人や高齢者、介助を必要とする旅行客など、多様な利用客を想像し、それぞれに必要な改善策を提言することができる。			プレゼンテーション		10%				
出 席				受験要件						
合 計				100%						

評価基準及び評価手段・方法の補足説明

- ① 「授業への積極姿勢」は、授業中の態度、発言・質問の頻度とレベルをもとに評価する。
- ② 「課題レポート」は提出時期(30%) 内容の論理性・独自性(50%) 文章構成力・形式要件(20%)で評価する。
- ③ 「プレゼンテーション」は、内容とともに、情報ツールの活用能力、発表態度などをもとに評価する。
- ④ 「現場視察への積極姿勢」は、事前準備、視察中の態度、事後のグループワークとりまとめなどを基に評価する

授業の概要

- ・ホテルの業務概要を学び、成果としてホテルビジネス実務検定の問題にチャレンジする。
- ・近隣ホテルの視食や施設見学を行い、ホテルの実情を体感する。
- ・感染症対策など、最新のホテル事情についても理解を深める。

また、授業の理解度をホテルビジネス実務検定の過去問回答やレスポンなどをを利用して確認する。課題レポートは、翌週の演習でフィードバックすると同時に、1週間コンテンツに掲示する。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。

教科書・参考書

教科書：ホテルビジネス「基礎編」（一般財団法人日本ホテル教育センター） 指定図書：演習時に指定する。

授業外における学修及び学生に期待すること

- ① ホテル・旅館など宿泊産業や観光イベントなどの情報に興味を持ち、メディアから積極的に入手する。
- ② ゼミのチームメンバーとは、協力して授業外の研究活動を行い、異文化交流を図る。
- ③ 「宿泊業論」・「ホテルオペレーション」・「プライダルマネジメント」など関連の科目を履修し、理解を深める。

回	テ　ー　マ	授　業　の　内　容	予習習・復習
1	オリエンテーション	メンバーおよび教員の自己紹介、今後の演習の進め方をシラバスに基づいて詳しく説明する。	(予習) シラバスを読んでおく。
2	個人目標の設定	個人目標を設定するための面談を実施する。	(予習) 本ゼミにおける個人の目標を考えておく。
3	ホテルの組織	一般的なホテルの組織について説明を受け理解する。	(予習) ホテルの組織について調べておく。
4	ホテルの仕事①	教科書および職務基準書に基づき、宿泊部門の主な仕事を理解する。	(予習) 宿泊部門の仕事に関する質問を考える。
5	ホテルの仕事②	ホテルビジネス実務検定の宿泊部門について、過去間にチャレンジする。	(復習) 自分の回答について教科書を確認する。
6	ホテルの仕事③	教科書および職務基準書に基づき、料飲部門の主な仕事を理解する。	(予習) 料飲部門の仕事に関する質問を考える。
7	ホテルの仕事④	ホテルビジネス実務検定の料飲部門について、過去間にチャレンジする。	(復習) 自分の回答について教科書を確認する。
8	ホテルの仕事⑤	教科書および職務基準書に基づき、宴会部門の主な仕事を理解する。	(予習) 宴会部門の仕事に関する質問を考える。
9	ホテルの仕事⑥	ホテルビジネス実務検定の宴会部門について、過去間にチャレンジする。	(復習) 自分の回答について教科書を確認する。
10	ホテルの仕事⑦	教科書に基づき、調理部門およびホテルの基礎について理解する。	(予習) 調理部門の仕事に関する質問を考える。
11	ホテルの仕事⑧	ホテルビジネス実務検定の調理部門およびホテルの基礎について、過去間にチャレンジする。	(復習) 自分の回答について教科書を確認する。
12	ホテル視察	近隣のフルサービス型ホテルを視察し、仕事の実情や感染症対策の現状を把握する。	(予習) 視察予定のホテルについて調べておく。
13	ホテル視察のプレゼンテーション	視察したホテルの結果についてプレゼンテーションを行い、実態の理解を深める。	(予習) 視察した内容をプレゼンテーションにまとめておく。
14	ホテルビジネス検定模試	ホテルビジネス実務検定 2 級（若しくは 1 級）模試を行う。	(予習) 対象範囲の復習をする
15	専門演習 IA のまとめ	学んだことをとりまとめ、発表する。その際、現在行かれている安全予防対策についても総括する。	(予習) 発表の準備をする

回	テ　ー　マ	授　業　の　内　容	予習・復習
1	オリエンテーション	自己紹介および演習の進め方を説明する。	予) シラバスの確認
2	前学期の省察と本学期の目標設定	ホスピタリティ・ルーブリックを用いて前学期の省察を行い、それを基に本学期の目標を設定する。またそれを基に教員と個別面談を行う。	予) 前学期の省察と本学期の目標設定 復) 本学期の目標の確認
3	興味関心を高める	世界の子どもの教育に関わる新聞記事について各自発表し、興味関心を高める。	予) 新聞記事の収集 復) 議論を振り返る
4	考察の視点を学ぶ①	比較教育に関する文献を読んで、学校を比較する視点や意義について理解する。	予) 指定された文献の講読 復) キーワードを中心に文献を復習する
5	考察の視点を学ぶ②	比較教育に関する文献を読んで、学校を比較する視点や意義について理解する。	予) 指定された文献の講読 復) キーワードを中心に文献を復習する
6	考察の視点を学ぶ③	比較教育に関する文献を読んで、学校を比較する視点や意義について理解する。	予) 指定された文献の講読 復) キーワードを中心に文献を復習する
7	基礎知識の確認をする①	日本の学校の特徴について、基本的な事項を確認し、理解を深める。	予) 日本の学校の特徴を整理する 復) 日本の学校に関する基本的事項の復習
8	基礎知識の確認をする②	日本の学校の特徴について、基本的な事項を確認し、理解を深める。	予) 日本の学校の特徴を整理する 復) 日本の学校に関する基本的事項の復習
9	基礎知識の確認をする③	国際機関等が作成した子どもの教育に関するデータや資料を概観し、国による教育の違いを大まかに理解する。	予) 外国の教育について知っていることを整理する 復) 世界の教育に関する基礎データの復習
10	報告手法を習得する	報告手法(担当者の割り振り、文献の報告箇所の確認、レジュメの作成方法・形式、プレゼンテーションの方法など)を説明する。	予) プrezentationの手法について調べる 復) 報告手法の確認
11	報告の準備をする	報告手法を再度確認し、担当箇所の報告準備を行う。	予) 報告準備 復) 報告準備の継続
12	報告・議論する①	担当者がレジュメを用いて担当国の学校について報告し、全員で報告内容について議論する。	予) 報告準備と文献の該当箇所の講読 復) レジュメをもとに議論を振り返る
13	報告・議論する②	担当者がレジュメを用いて担当国の学校について報告し、全員で報告内容について議論する。	予) 報告準備と文献の該当箇所の講読 復) レジュメをもとに議論を振り返る
14	報告・議論する③	担当者がレジュメを用いて担当国の学校について報告し、全員で報告内容について議論する。	予) 報告準備と文献の該当箇所の講読 復) レジュメをもとに議論を振り返る
15	報告・議論する④	日本と世界の学校の違いについて本演習で学んだことを整理し、発表する。夏季休暇後のスケジュールを確認する。	予) 発表準備 復) レジュメをもとに議論を振り返る

回	テ　ー　マ	授　業　の　内　容	予習・復習
1	専門演習の導入	演習の説明および授業における到達目標の決定	予：事前に研究室ホームページを参照し活動内容を理解
2	番組視察	放送現場の視察およびまちづくりに関する活動	予：活動拠点・スタジオの場所を把握する。
3	資格試験対策・面談	資格試験対策のポートフォリオ・Webの演習 個人目標設定のための面談を実施する	予：資格の調査分析
11	番組制作	番組作成のための調査・取材実践。放送原稿の作成	予：番組テーマの決定
5	活動参加	放送現場の視察およびまちづくりに関する活動	予：活動拠点をインターネットで調査
6	資格試験対策	資格取得の内容分析	予：資格の調査分析
7	プレゼンテーション	プレゼンテーション作成の基礎ソフトウェア操作の演習	予：プレゼンテーション機器の活用
8	デザインツールの活用	ソフトウェアの操作習得	予：映像関連ソフトの導入
9	デザインツールの活用	アニメーション画像技術、画像編集	予：映像関連ソフトの活用
10	デザインツールの活用	プロ志向の本格的なデザインの演習（パス・アンカー処理）	予：デザイン関連ソフト導入
11	デザインツールの活用	プロ志向の本格的なデザインの演習（レイヤー・グラデーション処理）	予：デザイン関連ソフト活用
12	番組制作	番組作成のための調査・取材実践。放送原稿の作成	予：番組テーマの決定
13	情報発信	コンテンツ作成と管理、番組出演、まちづくりに関する活動	予：作成原稿の確認と読み合わせ
14	番組制作	番組作成のための調査・取材実践。放送原稿の作成	予：コンピュータを使い作成する
15	情報発信	番組出演、まちづくりに関する活動	予：番組テーマを決定して作成原稿の確認

回	テ　ー　マ	授　業　の　内　容	予習・復習
1	オリエンテーション	自己紹介、本演習の目的、方法の説明 目標、スケジュール、課題の確認	予習：教科書の「はじめに」を読んでくる 復習：個人目標をポートフォリオに書いてくる
2	面談	前学期の省察　本学期の目標設定	本学期の目標設定
3	異文化間ソーシャルスキル	多様な文化を持つ人が多文化社会を共に生きていくことを理解し、考えていく	予習：教科書の「ウォーミングアップ」をしてくる 復習：「まとめ」を書く
4	寛容性 「心が広い」とは？	社会における寛容性、不寛容性について学び、今後の姿勢を考えていく	予習：教科書の「ウォーミングアップ」をしてくる 復習：「まとめ」を書く
5	アサーション・トレーニング	自分の感情を適切に表現し相手に伝える・伝えないとを考える	予習：教科書の「ウォーミングアップ」をしてくる 復習：「まとめ」を書く
6	コンセプトづくり①	フィールドワーク①—1	予習：フィールドワーク準備 復習：まとめ、ふりかえり
7	コンセプトづくり②	フィールドワーク①—2	予習：フィールドワーク準備 復習：まとめ、ふりかえり
8	ユニバーサル・デザイン	フィールドワーク②	予習：フィールドワーク準備 復習：フィールドワークまとめ
9	ユニバーサル・デザイン	ユニバーサル・デザインの基本的な概念を理解し、実際の日常生活を取りまく環境を考えていく。	予習：教科書の「ウォーミングアップ」をしてくる 復習：「まとめ」を書く
10	多様な「ことば」と日本語	フィールドワーク③	予習：フィールドワーク準備 復習：フィールドワークまとめ
11	多様な「ことば」と日本語	広い意味での言語（手話、方言、色、音等）のあり方を知り、これからのは「ことば」を考える	予習：指示された箇所を読み、課題をしてくる 復習：「まとめ」を書く
12	発表準備	ペア、またはグループで準備	発表準備
13	発表	発表　フィールドワーク①	予習：発表準備 復習：省察シート
14	発表	発表　フィールドワーク②、③	予習：発表準備 復習：省察シート
15	ふりかえり	今学期の学びとセッションのふりかえりを行い、次学期の学びを考える	予習：これまでの省察 個人ポートフォリオ記入 レポート作成

回	テ　ー　マ	授　業　の　内　容	予習・復習
1	オリエンテーション	前期の進め方を説明する。	ループリック入力
2	省察、個人目標の設定	前年度の学修成果を省察し、前期の個人目標設定のための面談を実施する。	ループリック入力
3	旅行業法（1）	法の目的、旅行業の定義 登録制度、登録拒否、登録変更	旅行業法 第1～6条の予習、復習
4	旅行業法（2）	営業保証金制度、旅行業務取扱管理者	第7～11条の予習、復習
5	旅行業法（3）	料金掲示、旅行業約款、取引条件説明、書面交付	第12条の該当箇所の予習、復習
6	旅行業法（4）	外務員、広告、標識、企画旅行の円滑な実施措置	第12条の該当箇所の予習、復習
7	旅行業法（5）	旅程管理業務、禁止行為、旅行業者代理業	第12～14条の該当箇所の予習、復習
8	旅行業法（6）	業務改善命令、旅行業協会、旅行サービス手配業	第18条～該当箇所の予習、復習
9	旅行業約款（1）	募集型企画旅行の部 第1章総則、第2章契約の締結	募集型企画旅行の部 第1～12条の予習、復習
10	旅行業約款（2）	募集型企画旅行の部 第3章契約の変更、第4章契約の解除	募集型企画旅行の部 第13～16条の予習、復習
11	旅行業約款（3）	募集型企画旅行の部 第4章契約の解除、第5章団体契約、第6章旅程管理	募集型企画旅行の部 第13～26条の予習、復習
12	旅行業約款（4）	募集型企画旅行の部 第7章責任	募集型企画旅行の部 第27～28条の予習、復習
13	旅行業約款（5）	募集型企画旅行の部 第7章責任 受注型企画旅行の部	募集型企画旅行の部 第29～30条の予習、復習 受注型企画旅行の部 第1～7章の予習、復習
14	旅行業約款（6）	手配旅行契約の部、旅行相談の部	手配旅行契約の部 第1～7章の予習、復習 旅行相談の部の予習、復習
15	運送・宿泊約款	運送約款、宿泊約款の概要と重点ポイント	運送約款、宿泊約款の予習、復習

準備学習は、自分の興味のある世界遺産、有名観光地を調査し、理解することです。新型コロナウィルス感染防止の観点から、今年はインターネット、テキスト等で調査することが基本となります。また、企画書などの表現力、プレゼンテーション力の向上を意識した学習も必要です。観光を学びながら、「社会人基礎力」を身に付けることを推奨します。学生の間に、世界遺産検定の受験も推奨します。

回	テ　ー　マ	授　業　の　内　容	予習・復習
1	全体の流れ	すべての内容とスケジュールの説明、それに将来に向けて期待すること、達成目標を説明します。	シラバスを十分読み込み、疑問があれば事前にまとめる。
2	個別面談①	前学期の省察を行う。個人目標設定のための面談を実施する。	面談のための準備
3	個別面談②	前学期の省察を行う。個人目標設定のための面談を実施する。	面談のための準備
4	世界遺産検定対策①	世界遺産検定の試験を活用して世界遺産の理解を深める。	テキストで該当箇所を予習する。
5	世界遺産検定対策②	世界遺産検定の試験を活用して世界遺産の理解を深める。	テキストで該当箇所を予習する。
6	世界遺産検定対策③	世界遺産検定の試験を活用して世界遺産の理解を深める。	テキストで該当箇所を予習する。
7	世界遺産検定対策④	世界遺産検定の試験を活用して世界遺産の理解を深める。	テキストで該当箇所を予習する。
8	地域連携活動ミッション提示	ミッションを理解し、魅力のある地域連携活動について考える。	インターネット、ガイドブックなどで情報収集する。
9	地域連携活動①グループワーキング	ミッションに応じた地域連携活動についてグループで議論する。	リーダーの下で、議論を整理する。
10	地域連携活動②グループワーキング	ミッションに応じた地域連携活動についてグループで議論する。	リーダーの下で、議論を整理する。
11	地域連携活動③グループワーキング	ミッションに応じた地域連携活動についてグループで議論する。	リーダーの下で、議論を整理する。
12	地域連携活動④グループワーキング	ミッションに応じた地域連携活動についてグループで議論する。	リーダーの下で、議論を整理する。
13	地域連携活動⑤グループワーキング	ミッションに応じた地域連携活動についてグループで議論する。	リーダーの下で、議論を取りまとめる。
14	地域連携活動①プレゼンテーション	グループごとに地域連携活動のプレゼンテーションを行う。	グループごとに事前にプレゼンテーションを準備する。

15	地域連携活動②プレゼンテーション	グループごとに地域連携活動のプレゼンテーションを行う。	グループごとに事前にプレゼンテーションを準備する。
----	------------------	-----------------------------	---------------------------

- ・授業では、遅刻、無断欠席、途中退室などない積極的な参加を強く求めていく。
- ・日常生活の中で、文化背景の異なる他者との異文化コミュニケーションを意識して行動してもらいたい。

回	テ　ー　マ	授　業　の　内　容	予習・復習
1	前学期の省察と本学期の目標設定・面談	前学期の省察を行い、それを基に本学期の目標を設定する、面談実施	・予習：前学期の省察と本学期の目標設定の下書き ・復習：本学期の目標設定の清書
2	異文化コミュニケーションとは①	異文化における新しい常識の発見およびステレオタイプについての解説、ディスカッション	・予習：第1章、1-2項 ・復習：ステレオタイプに関するポートフォリオの回答
3	異文化コミュニケーションとは②	異文化理解に必要な態度についての解説、セルフチェック、ディスカッション	・予習：第1章、3項 ・復習：異文化理解への態度に関するポートフォリオの回答
4	異文化コミュニケーションとは③	文化とコミュニケーションの関係についての解説、ディスカッション	・予習：第1章、4項 ・復習：文化とコミュニケーションに関するポートフォリオの回答
5	異文化への適応	カルチャーショックおよび異文化適応モデルについての解説、ディスカッション	・予習：配付資料 ・復習：カルチャーショックに関するポートフォリオの回答
6	コミュニケーション・スタイル①	コンテキストおよびターンテーキングについての解説、ディスカッション	・予習：第2章、1-2項 ・復習：コンテキストに関するポートフォリオの回答
7	コミュニケーション・スタイル②	自己開示についての解説、セルフチェック、ディスカッション	・予習：第2章、3項 ・復習：自己開示に関するポートフォリオの回答
8	コミュニケーション・スタイル③	パラ言語についての解説、ディスカッション	・予習：第2章、4項 ・復習：パラ言語に関するポートフォリオの回答
9	ケーススタディ①	異文化コミュニケーション事例を題材としたPBL	・予習：第1章、第2章の振り返り ・復習：PBLの成果に関するポートフォリオの回答
10	言語コミュニケーション①	ほめ方および叱り方に関する文化的差異についての解説、ディスカッション	・予習：第3章、1-2項 ・復習：ほめ方・叱り方に関するポートフォリオの回答
11	言語コミュニケーション②	謝り方に関する文化的差異についての解説、ディスカッション	・予習：第3章、3項 ・復習：謝り方に関するポートフォリオの回答
12	言語コミュニケーション③	誘い方・断り方に関する文化的差異についての解説、ディスカッション	・予習：第3章、5項 ・復習：誘い方・断り方に関するポートフォリオの回答
13	ケーススタディ②	コミュニケーションにおける文化的差異を題材としたPBL	・予習：第3章の振り返り ・復習：PBLの成果に関するポートフォリオの回答
14	レポート作成	テーマに関するレポート作成	・予習：レポートの下調べ ・復習：レポートの仕上げ、プレゼン資料の作成
15	プレゼンテーション	テーマに関する発表	・予習：プレゼンのリハーサル ・総復習、レポート提出

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	全体の導入	この一年で何を目指すのか?の確認。 演習全体の方向性の説明とメンバーの自己紹介、等。	予: シラバスの読み込み。 3分自己紹介の準備。 復: 何を目指すのか?をあらためて考える。
2	個人面談・目標設定	演習開始に際するメンバー個々の興味の確認。個人目標の設定、等。	予: 目指す事を5分間で発表する為の準備。 復: 個人目標の確定。
3	課題想起・まとめ(1)	世界は今どの様に動いているのか? 今週のトピックスのシェアと意見出し。①	予: ホームワーク完成 復: 個人発表のレビュー
4	課題想起・まとめ(2)	世界は今どの様に動いているのか? 今週のトピックスのシェアと意見出し。②	予: ホームワーク完成 復: 個人発表のレビュー
5	課題想起・まとめ(3)	世界は今どの様に動いているのか? 今週のトピックスのシェアと意見出し。③	予: ホームワーク完成 復: 個人発表のレビュー
6	課題想起・まとめ(4)	3週目から5週目のレビュー実施。	予: レビュー取り纏め
7	佐世保・小値賀研究(1)	『「海風の国」観光マイスター試験』対策。①	予: テキスト読み込み
8	課題想起・まとめ(5)	世界は今どの様に動いているのか? 今週のトピックスのシェアと意見出し。④	予: ホームワーク完成 復: 個人発表のレビュー
9	課題想起・まとめ(6)	世界は今どの様に動いているのか? 今週のトピックスのシェアと意見出し。⑤	予: ホームワーク完成 復: 個人発表のレビュー
10	課題想起・まとめ(7)	世界は今どの様に動いているのか? 今週のトピックスのシェアと意見出し。⑥	予: ホームワーク完成 復: 個人発表のレビュー
11	課題想起・まとめ(8)	8週目から10週目のレビュー実施。	予: レビュー取り纏め
12	佐世保・小値賀研究(2)	『「海風の国」観光マイスター試験』対策。②	予: テキスト読み込み
13	グループスタディ(1)	前期のサマリーを制作。 ※報告書仕上げ。	予: 報告書仕上げの準備。
14	グループスタディ(2)	前期のサマリーを制作。 ※プレゼンテーション実施。 ※講評	予: プレゼンテーションの準備。
15	まとめ	総括	予: 個人総括の仕上げ

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	オリエンテーション	メンバー自己紹介 演習概略およびゼミの運営方法を確認する。	(予習) 事前にシラバス及び演習概略に目を通してくる。
2	個人目標の設定	個別面談による目標設定をおこなう。	(予習) 自身のこれまでの取り組や興味・関心をまとめてくる。
3	SDGs の基礎知識習得①	SDGs の基本や取り組む意味について	(復習) 学習内容と教科書の読み直し
4	SDGs の基礎知識習得②	SDGs の基本的な概念 (17 のテーマ)、用語について学ぶ。	(復習) 学習内容と教科書の読み直し
5	SDGs の基礎知識習得③	SDGs のテーマごとの実態について調べて発表する	(予習) 「17 のテーマのうちから一つ選んで実態を調べる」
6	SDGs の基礎知識習得④	各グループの発表と振り返り	(復習) 自分の興味・関心をレポートにまとめる
7	SDGs の基礎知識習得⑤	地域課題の連鎖について考える	(復習) これまでの学びから自分の興味関心をまとめる。
8	SDGs と観光①	地域課題の解決手段としての地域観光の課題と持続性について考える	(予習) 県内の観光資源についてまとめてくる。
9	SDGs と観光②	テーマに従って地域観光の課題について調べて発表する。	(復習) 課題から具体的な論点を考える。
10	グループワーク①	関連データの収集、調査内容の整理・検討およびスケジューリング確認。	(予習) 調査対象の絞り込み。
11	グループワーク②	フィールドワーク	(予習) 調査ポイントの確認
12	グループワーク③	グループごとの進捗・経過の発表	(予習) 発表内容の論点確認
13	グループワーク④	担当教員と各グループ別に企画案の内容確認・精査	(予習) 自分の調査分野での論点を確認。
14	グループワーク⑤	プレゼンテーション準備	(予習) 発表準備
15	成果発表	グループごとに企画案プレゼンテーション。 意見交換と演習全体のふりかえり。	(予習) グループでの発表の確認

回	テ　ー　マ	授　業　の　内　容	予習・復習
1	オリエンテーション	ゼミの仲間、お互いを知る。 授業の進め方、発表の方法について説明。	予習：「シラバス」を読んでくる
2	前学期の省察と本学期の目標設定	ゼミ担当教員と相談しながら、前学期の省察を行い、それを基に本学期の目標設定について確定する	予習：前学期の省察と本学期の目標設定の下書き 復習：本学期の目標設定の清書
3	「日本語のことば」を考える ☆「は」と「が」どっち？	助詞「は」と「が」の働きについて理解する。	予習：教員の出す助詞の「問い合わせ」について答えをさがす 復習：「は」と「が」の課題
4	「日本語のことば」を考える ☆「こそあど」のルール	指示詞について理解する。 発表者は「問い合わせ」に対する答えを発表する。	予習：教員の出す指示詞の「問い合わせ」について答えをさがす 復習：指示詞の課題
5	「日本語のことば」を考える ☆「に」と「で」どっち？	助詞「に」と「で」の働きについて理解する 発表者は「問い合わせ」に対する答えを発表する。	予習：教員の出す助詞の「問い合わせ」について答えをさがす 復習：「に」と「で」の課題
6	「日本語のことば」を考える ☆オノマトペ①	オノマトペについて理解する。	予習：配布資料「オノマトペ」を読む 復習：オノマトペを探す
7	「日本語のことば」を考える オノマトペ②	学内と学外で、オノマトペをさがして分析しよう。	予習：配布資料「オノマトペ」を読む 復習：さがしたオノマトペの分析
8	オノマトペ 異文化理解とは何だろう	オノマトペフィールドワークの発表 演習を通して「異文化理解」について考える	予習：「異文化理解」について資料を読んでくる 復習：オノマトペ課題
9	互いの文化を知ろう	ゼミ仲間のそれぞれの文化を知る	予習：異文化交流の準備 復習：異文化交流のふりかえりワークシート
10	全国通訳案内士って？ (または、日仏多言語漫才コンビとともに多言語漫才体験)	全国通訳案内士として活躍されているゲスト講師の仕事内容や仕事の面白さや大変さについて話を聞く または、多言語漫才体験を通じて、協働の楽しさを知る（ゲストスピーカー・実務家）	予習：「全国通訳案内士」について資料を読んでくる 復習：お話の感想を書く
11	外国語でのコミュニケーション	演習を通して「外国語でコミュニケーション」するとの楽しさや難しさを考える	予習：「外国語でのコミュニケーション」について資料を読んでくる 復習：学んだ外国語復習
12	価値観の違いについて	「価値観」について理解する 「価値観の違い」について考える	予習：「価値観」について資料を読んでくる 復習：ワークシート
13	非言語コミュニケーション	「非言語コミュニケーション」について理解する どんな「非言語コミュニケーション」があるか考える	予習：「やさしい日本語」について資料を読んでくる 復習：ワークシート
14	観光と日本語 「やさしい日本語」と観光のことば	「おもてなし」のことばを「やさしい日本語」に。	予習：「やさしい日本語」について資料を読んでくる 復習：案内表示を「やさしい日本語」に変える課題
15	最終プレゼン	本学期に学び関心がある項目についてプレゼンテーション。	予習：学期内に学修した内容をプリントなどで復習

回	テ　ー　マ	授　業　の　内　容	予習・復習
1	Introduction	<ul style="list-style-type: none"> • Introduce the course and review the syllabus • Basic framework for selecting and discussing current events 	Read syllabus in advance
2	Personal goal setting	<ul style="list-style-type: none"> • Conference with seminar teacher about personal goals for the semester / <i>Rubric Hyoka</i> 	Prepare goals
3	Current Event Topic 1 Presentation beginnings	<ul style="list-style-type: none"> • Students discuss selected current events topic. • Effective introductions and message objective 	Prepare current event topic 1
4	Current Event Topic 2 Basic slide design	<ul style="list-style-type: none"> • Students discuss selected current events topic. • Overview of basic slide design principles 	Prepare current event topic 2
5	Mini-presentation 1	<ul style="list-style-type: none"> • Students present part 1 of their presentation 	Prepare mini-presentation
6	Signposting for clarity	<ul style="list-style-type: none"> • Feedback on mini-presentation 1 • Using signposting to make a clearer presentation 	Check feedback
7	Describing visuals	<ul style="list-style-type: none"> • Describing what's on your slides • Including sources 	Review signposting
8	Describing visuals Engaging the audience	<ul style="list-style-type: none"> • Describing what's on your slides • Engaging the audience 	Review slide visuals
9	Mini-presentation 2	<ul style="list-style-type: none"> • Students present part 2 of their presentation 	Prepare presentation
10	Making a conclusion	<ul style="list-style-type: none"> • Feedback on mini-presentation 2 • Summarizing ideas • Re-emphasizing the message objective 	Check feedback
11	Designing handouts	<ul style="list-style-type: none"> • The role of handouts • Types of handouts 	Review conclusions
12	Doing a Q & A	<ul style="list-style-type: none"> • The role of Q&A • Basic participation in a Q&A • Managing difficult questions 	Review handouts
13	Final Presentations	<ul style="list-style-type: none"> • Students present and participate in Q&A 	Prepare for presentation and Q&A
14	Final Presentations	<ul style="list-style-type: none"> • Students present and participate in Q&A 	Prepare for presentation and Q&A
15	Final Presentations Wrap-up	<ul style="list-style-type: none"> • Students present and participate in Q&A • Final class discussion 	Prepare for presentation and Q&A Submit final report

授業科目(ナンバリング)	専門演習 IA(CF201)		担当教員	浦郷 淳					
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・前期	必修・選択			
授業のねらい						アクティブラーニングの類型			
<p>本演習のテーマは「経験と教育」である。経験とは、これまでの生活の中全てで得てきたものであるが、ここでは特に学修履歴に焦点をあてる。そして学修履歴と自分がこれまでに受けてきた教育とを結び付け、今様々にある教育の根幹に関心を向けられるように導きたい。演習では、自身の経験を整理し、文献や報告書と照らし合わせながらレジュメを作成、発表し、質疑応答・議論をする中で自らの学修を価値づけられるようにしていきたい。その過程で、情報を整理・分析する能力、集めた情報を的確に表現し、論理的に示す能力、ディスカッションを通して受講者相互の相違を理解する多様性の理解力、これら基礎力の養成をはかりたい。</p>						③⑤⑥⑧			
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標			評価手段・方法	評価比率				
専門力									
情報収集、分析力	データや資料等の文献を的確に分析することができる。 発表を基に、自身の経験を類別することができる。			レジュメ レポート等	20% 20%				
コミュニケーション力	レジュメを用い、聞き手を意識した表現ができる。 発表に関して、他の受講者と質疑応答・議論に参加できる。			発表・応答 質疑応答・議論	20% 30%				
協働・課題解決力									
多様性理解力	自らの経験と他者の経験の違いを理解し、経験の多様性について尊重した上で議論をすることができる。			質疑応答・議論	10%				
出席					受験要件				
合計					100%				

評価基準及び評価手段・方法の補足説明

- 評価については、レジュメの様式・内容を20%、発表と質疑応答・議論を60%、発表と議論の振り返りとなるレポートを20%の比率で評定する。
 - レジュメは、①様式の順守②引用文献のルールの順守③事実と考察、分析の的確さ④自らの学修の履歴の整理等で評定する。レジュメの作成方法については演習中に例示し、随時修正個所の指摘やアドバイスを行う。
 - レポートは、発表後に提出する。提出方法については授業内で提示する。①議論を受けた加筆修正②自らの学修の履歴の整理等で評定する。
 - 発表者は、①聞き手を意識した資料の用意と発表の様子②質問の意図を理解した応答等で評定する。
 - 質疑・議論では、①端的な質問②相手を尊重した議論で評定する。

授業の概要

授業については、概ね次の手順によって進める。

- 自身の経験について表出し、整理し、分析する手段について理解する。(思考ツール)
 - 学校教育に焦点をあて、学校教育を成立させている枠組みについて理解する。(教育課程論)
 - 自身の学修経験が、学校教育の中においてどのような位置づけであるのかを整理する。
 - 自分が整理したものを発表・共有し、自らの学修経験を価値づける。

この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。

教科書・参考書

教科書：特に指定しない（資料は適宜配布する）参考書：奈須正裕『子どもと創る授業』ぎょうせい（2013）
指定図書：松尾睦『経験からの学習』同文館出版（2010）文部科学省「学習指導要領」※授業で説明する。

授業外における学修及び学生に期待すること

- 担当外の論考も必ず読み、不明な語句は調べておくこと。また、関連資料及びニュース等には目を通しておくこと。
 - 議論については相互の意見を尊重し、建設的なものになるよう努めること。
 - 議論の中で出された意見等について個々に整理し、復習すること。
 - 留学生の受講も歓迎するが、日本社会や日本の教育に関するある程度の知識があることを前提として授業を進める点を十分理解した上で受講を勧める。留学生の受講も歓迎しますが、日本社会や日本の教育に関する程度の知識があることを前提として授業を進める点を十分理解した上で受講を勧めます。

回	テ　ー　マ	授　業　の　内　容	予習・復習
1	オリエンテーション	自己紹介、演習の進め方を説明する。 受講者の問題意識等を共有する。	予) シラバスの確認
2	本学期の目標設定	本学期の目標を設定する。またそれを基に教員と個別面談を行う。	予) 本学期の目標設定 復) 本学期の目標の確認
3	経験とは何かを考える①	幼少期の子どもの経験について、文献を基に検討する。	予) 配布資料の通読 復) 検討したことを振り返り、幼少期の経験について整理しておく
4	経験とは何かを考える②	学齢期の子どもの経験について、文献を基に検討する。	予) 配布資料の通読 復) 検討したことを振り返り、学齢期の経験について整理しておく
5	自らの経験を整理する	自らのこれまでの学修の履歴を振り返り、記憶しているものを整理する。	予) 自らの経験を振り返り整理しておく 復) 受講後思い出した経験等を整理しておく
6	自らの経験を辿る①小学校	整理した経験のうち、小学校に関するものが学校においてどのような位置づけであるのかを、小学校学習指導要領を基に検討する。	予) 小学校の学習指導要領に目を通す 復) 小学校の学習指導要領で経験の内容を振り返る
7	自らの経験を辿る②中高	整理した経験のうち、小学校に関するものが学校においてどのような位置づけであるのかを、中学校・高等学校学習指導要領を基に検討する。	予) 中・高の学習指導要領に目を通す 復) 中・高の学習指導要領で経験の内容を振り返る
8	自らの経験に焦点をあてる①	自らの経験のうち、記憶している学校教育下におけるものの中から、発表する事項を選択する。 発表の方法を学ぶ。	予) 自らの学校での経験を整理しておく 復) 発表方法を確認する
9	焦点をあてた経験を発表する①	担当者が作成したレジュメをもとに議論する。	予) レジュメ作成もしくは不明語句調べ 復) 議論でわからなかった語句調べ
10	焦点をあてた経験を発表する②	担当者が作成したレジュメをもとに議論する。	予) レジュメ作成もしくは不明語句調べ 復) 議論でわからなかった語句調べ
11	焦点をあてた経験を発表する③	担当者が作成したレジュメをもとに議論する。	予) レジュメ作成もしくは不明語句調べ 復) 議論でわからなかった語句調べ
12	自らの経験に焦点をあてる②	発表以外での記憶している経験について、受講者相互に紹介し、学校教育においてどのような位置づけになるかを全体で議論する。	予) 発表していない学校での経験を整理しておく 復) 自らの経験を再度学習指導要領で見直す
13	学校における経験について議論する①	受講者が記憶していた経験が、学校教育上どのような意義があるのかを全体で検討するとともに、覚えていない経験について資料を基に検討する。	予) 学習指導要領に目を通しておく 復) 学校教育上の経験について振り返る
14	学校における経験について議論する②	記憶していないが、取り組んでいるであろう経験を抽出し、その学習の意義について検討する。	予) 忘れている経験を思い返す 復) 議論を振り返る
15	経験と教育について整理する	本演習で学んだことを整理し、議論する。夏季休暇後のスケジュールを確認する。	予) 学んだことを振り返つておく

回	テー マ	授 業 の 内 容	予習・復習
1	オリエンテーション	・ 演習授業の進め方についての説明 ・ 自己紹介 ・ 連絡網の作成	予習：シラバスを熟読し理解する 復習：受講規則の確認
2	本学期の目標設定	・ 前学期の省察を行い、各個人の本学期の目標を設定する	予習：前学期の省察 復習：本学期の目標設定の確認
3	輪読の準備（1）	・ ワード、エクセル、パワーポイントなどを取得	予習：PCの準備 復習：ソフトの使用方法を復習
4	輪読の準備（2）	・ ワード・パワーポイントによる資料作成方法の習得	予習：事前にソフトを活用する 復習：資料作成の方法の復習
5	輪読の準備（3）	・ 教員による参考書・テキストなどの紹介	予習：参考書などの通読 復習：授業で輪読した箇所の復習
6	輪読（1）	・ 教員による輪読・発表 (テーマ・健康を考える)	予習：健康に関する自身の考察をまとめる 復習：健康の意義について復習
7	輪読（2）	・ 担当者による輪読・発表 (テーマ・健康とメンタルヘルス)	予習：メンタルヘルスの調査 復習：現代のメンタルヘルスについて復習
8	輪読（3）	・ 担当者による輪読・発表 (テーマ・健康と体力)	予習：体力に関する意識調査 復習：健康と体力の関連性について復習
9	輪読（4）	・ 担当者による輪読・発表 (テーマ・運動プログラム)	予習：運動プログラムの事前調査 復習：運動プログラムの種類について復習
10	輪読（5）	・ 教員による輪読・発表 (テーマ・健康とスポーツの関係)	予習：テーマに関する事前調査 復習：生涯スポーツについて復習
11	輪読（6）	・ 担当者による輪読・発表 (テーマ・運動を文化としてとらえる)	予習：運動の文化に関する調査 復習：運動文化論の概念について復習
12	輪読（7）	・ 担当者による輪読・発表 (テーマ・健康と食事・栄養の関係性)	予習：健康と栄養の関連性についての調査 復習：スポーツ栄養学について復習
13	論文検索	・ インターネットでの検索方法の習得 (スポーツ・健康科学に関する事柄の調査)	予習：検索方法を調査 復習：直近のスポーツ・健康科学の事柄について復習
14	論文検索の発表	・ スポーツ・健康科学に関する調査結果の発表	予習：検索した事柄をまとめ 復習：各自の調査結果をまとめ
15	総括	・ 前期授業のまとめと休暇中の課題	各自設定した課題などの省察

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅠA(CF201)			担当教員	川上 知子						
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	2年・前期	必修・選択	必修				
授業のねらい							アクティブラーニングの類型				
本演習では、青年心理学（青年期：国や論者によって諸説あるが、一般的に中・高・大の年齢層）を大きな柱とし授業を展開する。学生の皆さん自身が位置づく青年期の心理学的側面について理解を深めることで、自己理解・他者理解を促していくことを目的としている。具体的には、青年期で起こるまたは起これり得る現象を心理学的視点から分析考察、互いに議論することを通じて、人を理解することの奥深さ、自分を理解することの重要性について体感する場としたい。							①④⑤ ⑥⑩⑫				
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率					
専門力	<ul style="list-style-type: none"> 青年期について基礎的理論を理解し、自分に置き換えるなどして説明することができる。 				発表・議論 授業の振り返り	10%					
情報収集、分析力	<ul style="list-style-type: none"> 自分のもつ問題意識をもとに、新聞やニュース、文献、書籍などから事例や情報、理論を収集することができる。 多面向的に物事を整理し、自分自身がどう考え捉えているのかを意識して、プレゼン資料やレポートを作成することができる。 				レポート・プレゼン資料	35%					
コミュニケーション力	<ul style="list-style-type: none"> 他者の意見（ものの見方）に関心・理解を示しつつ、自分自身がどう考え捉えているのかを伝えることができる。 				発表・議論 授業の振り返り	40% 5%					
協働・課題解決力											
多様性理解力	<ul style="list-style-type: none"> 自身の課題への取組と他者の意見を通して、色々なものの見方、感じ方があることを理解することができる。 				発表・議論 授業の振り返り	10%					
出席					受験要件						
合計					100%						

評価基準及び評価手段・方法の補足説明

評価については、レポート・プレゼン資料の様式や内容を35%，発表・議論，授業の振り返り（授業後記述）を65%の比率で評価する。レポート・プレゼン資料は、文献等の引用ルールの順守等の基本的なアカデミックスキルと根拠を踏まえた論理的な文章による考察や独自性などの観点から評価する。レポート・プレゼン資料の作成に関しては、演習の初回で説明し、作成に関する修正点や質問等は隨時対応する。発表・議論，授業の振り返りについては、専門的な視点への意識の有無やテーマに対する考えの深まりについて、発言の内容や議論への参加などを基準に評価する。なお、前回の授業の振り返りについては次回の授業の冒頭でフィードバックを行う。

授業の概要

この演習では、青年心理学を大きな柱とし授業を展開する。授業の前半で、青年期の心理的な側面に関する基礎的な知識（理論）について教員から説明を行う。その視点を踏まえつつ、自身の問題意識をもとにプレゼン資料を作成し、互いの議論で現象理解の深化、自他への理解を促していく。具体的な授業の流れとしては、各自、青年期（中学、高校、大学）におけるアイデンティティの発達や人間関係、将来の進路などに関する課題についての事例を提示し、その背景や対処法などについて客観的根拠に基づく自身の見解を発表する。この演習の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。

教科書・参考書

教科書：特に指定しない。

参考書：授業時に紹介するので、詳細を知りたい場合や知識を深めたい場合は参照のこと。

指定図書：エピソードでつかむ青年心理学（大野久編著、ミネルヴァ書房）

思春期・青年期のこころーかかわりの中での発達（平石賢二編著、北樹出版）

※留学生には別途、授業中に指示する

授業外における学修及び学生に期待すること			
1. 自分の関心の傾向を知ること。(自分の軸となり得ますが、色々な関心の幅を広げていくことを意識すること) 2. 普段から青年期に関するニュースや資料へのアンテナをはり、情報を収集すること。 3. 他者のテーマについても、理解を深めよう努めること。 4. 議論で明らかになった不明点や新たな発見を整理し、復習し、探究の視点として学びにつなげていくこと。 5. 留学生の受講も歓迎する。青年期における母国と日本の比較など（言語に不安があっても気にせずに）積極的な意見の交流を目指すこと。			
回	テ　ー　マ	授　業　の　内　容	予習・復習
1	イントロダクション	メンバー自己紹介 授業の概要およびゼミの運営方法を確認する。	予習：事前にシラバス及び演習概略を確認する
2	前学期の省察と本学期の目標設定	個別面談による目標設定をおこなう。	予習：自身のこれまでの取組や興味・関心について整理してくる。
3	青年期に関する基本的知識の習得①	青年期のキャリア発達段階について学ぶ (スーパーのキャリア発達の諸段階と発達課題について)※後半は教員が提示するテーマについての議論	復習：スーパーのキャリア発達
4	青年期に関する基本的知識の習得②	青年期の発達主題について学ぶ。(エリクソンの漸成発達理論について)※後半は教員が提示するテーマについての議論	復習：エリクソンの漸成発達理論について復習
5	青年期に関する基本的知識の習得③	①②を踏まえて、青年期を生きる自分自身をテーマに自分について他者に紹介するスライドを作成する。	予習：自分の強みや弱みなども含め、自分について整理してくる
6	事例で学ぶ①青年期に起こり得る危機的課題について	不登校、人間関係（家族、友達、SNS、いじめなど）に関する問題、進路問題などについて、教員が提示するテーマについて、探究事例の紹介	復習：自分の問題意識に基づくテーマについての検討と探究
7	事例で学ぶ②青年期に起こり得る危機的課題について	不登校、人間関係（家族、友達、SNS、いじめなど）に関する問題、進路問題などについて、教員が提示するテーマについて、探究事例の紹介	復習：自分の問題意識に基づくテーマについての検討と探究
8	レポート・発表資料の作成方法について	レポート・発表資料の作成について	予習：発表資料の作成 復習：資料作成のポイント
9	テーマ研究①	担当者による発表と議論、教員からのフィードバック	予習：発表資料の作成 復習：議論についての整理
10	テーマ研究②	担当者による発表と議論、教員からのフィードバック	予習：発表資料の作成 復習：議論についての整理
11	テーマ研究③	担当者による発表と議論、教員からのフィードバック	予習：発表資料の作成 復習：議論についての整理
12	テーマ研究④	担当者による発表と議論、教員からのフィードバック	予習：発表資料の作成 復習：議論についての整理
13	テーマ研究⑤	担当者による発表と議論、教員からのフィードバック	予習：発表資料の作成 復習：議論についての整理
14	レポートの作成	テーマに関するレポート作成	予習：学びの想起 復習：レポートの仕上げ
15	成果の発表	テーマに関する発表	予習：発表練習 復習：レポート提出

回	テ　ー　マ	授　業　の　内　容	予習・復習
1	はじめに 最古の村落の出現（1）	演習全体の導入と説明 初期農耕牧畜社会の出現と拡散1	復習：今回の復習 予習：初期農耕牧畜社会について調べる
2	前学期の省察と本学期の目標設定	前学期の省察を行い、それを基に本学期の目標を設定する	予習：前学期の省察と本学期の目標設定の下書き 復習：本学期の目標設定の清書
3	最古の村落の出現（2）	レポートの発表・添削・修正	復習：レポートの復習 予習：配布資料を読む
4	最古の村落の出現（3）	レポートの発表・添削・修正	復習：レポートの復習 予習：ウルク遺跡について調べる
5	古代メソポタミア文明 最古の都市（1）	都市の成立と都市国家間の争い1	復習：今回の復習 予習：シュメール文明について調べる
6	古代メソポタミア文明 最古の都市（2）	都市の成立と都市国家間の争い2	復習：今回の復習 予習：配布資料を読む
7	古代メソポタミア文明 最古の都市（3）	レポートの発表・添削・修正	復習：レポートの復習 予習：配布資料を読む
8	古代メソポタミア文明 最古の都市（4）	レポートの発表・添削・修正	復習：レポートの復習 予習：古王国時代について調べる
9	古代エジプト文明（1）	古王国時代（ピラミッドが建設された時代）1	復習：今回の復習 予習：ピラミッドについて調べる
10	古代エジプト文明（2）	古王国時代（ピラミッドが建設された時代）2	復習：今回の復習 予習：配布資料を読む
11	古代エジプト文明（3）	レポートの発表・添削・修正	復習：レポートの復習 予習：配布資料を読む
12	古代エジプト文明（4）	レポートの発表・添削・修正	復習：レポートの復習 予習：古代インダス文明について調べる
13	古代インダス文明（1）	古代メソポタミアとの海上交易	復習：今回の復習 予習：配布資料を読む
14	古代インダス文明（2）	レポートの発表・添削・修正	復習：レポートの復習 予習：配布資料を読む
15	古代インダス文明（3）	レポートの発表・添削・修正	復習：レポートの復習

授業科目(ナンバリング)	専門演習 IA (CF201)			担当教員	神野 周太郎							
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2年・前期	必修・選択	必修					
授業のねらい						アクティブラーニングの類型						
本演習では、「体育」「スポーツ」「運動」「身体」「教育」に関連する問い合わせ各自で設定し、それについての答えをみつけるための能力を培うことを目的とする。それは個人的な問題を他者と共有し、多角的な視点から共通了解となる答え（ものごとの本質）をみつけるための「哲学的思考」を展開する能力を培うことでもある。本演習では、教員や学生が共に対話（議論）を展開することを重視する。							⑤ ⑥ ⑦					
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標			評価手段・方法		評価比率						
専門力												
情報収集、分析力	「体育」「スポーツ」「身体」に関するニュース、コラム、評論、書籍を集め、それらを通覧する中で個人的な問い合わせを設定できる。			• 資料収集 • 問いの設定内容		30 % 10 %						
コミュニケーション力	「体育」「スポーツ」「身体」についての個人的な問題意識を他者と共有し、共通了解となる答えをみつけるための議論ができる。			• 他者の主張を踏まえた議論の展開		60 %						
協働・課題解決力												
多様性理解力												
出席				受験要件								
合計				100%								

評価基準及び評価手段・方法の補足説明

- 議論を展開する上で、各自設定したテーマに関連する適切な先行研究や資料を選択し、それらを概観した上でレジュメ（要約、自分なりの考察）を作成しているか、その内容が論理的に展開されているか（問題、テーマ、議論、答え）を評価する。
 - 運動やスポーツを模擬指導する上で、各自設定した種目、対象について適切な課題や教材を設定した上で指導案（指導計画）が作成されているかを評価する。
 - 個別テーマ研究や実技指導の後の議論では、問い合わせを共有しそれについての意見を建設的に述べられているか、評価すべき点や改善すべき点は何かといった自身の意見を述べられているかを評価する。
 - フィードバックについては、学生と個別に口頭でやりとりをする中で、理解度、達成度、課題を把握させる。

授業の概要

- ・体育やスポーツの諸科学の中でも、人文科学的な研究方法に基づいて、問題を共有するためのレジュメ（発表資料）や現場で必要となる指導案を作成し、適宜運動実践も交えつつ、発表内容や実践の省察を議論形式で実施する。議論については、その方法自体を学んだ上で実際に意見を交わし合う。実践については、教員希望者の場合模擬授業を、スポーツ指導者の場合はスポーツ指導を展開し、それについて省察する。
 - ・この授業の標準的な 1 コマあたりの授業外学修時間は 45 分とする。

教科書 · 參考書

教科書：『中学校学習指導要領解説 保健体育』文部科学省 2018 東山書房

『高等学校学習指導要領解説 保健体育』文部科学省 2018 東山書房

参考書：各県教員採用試験過去問題集（保健体育）＊指定しない

教員採用試験参考書（保健体育）＊指定しない

教員採用試験ステップアップ問題集（保健体育）七賢出版 *該当年度の問題集

指定図書：雑誌『月刊 体育科教育』大修館書店、雑誌『現代スポーツ評論』創文企画

『はじめての哲学的思考』 苦野一徳 2017 筑摩書房

授業外における学修及び学生に期待すること			
「体育」「スポーツ」「運動」「身体」「教育」に関わるニュース、コラム、評論、雑誌、書籍に触れる機会を増やすこと。ネット記事であればブックマークをしたり、気になる紙媒体の資料があればコピーしてファイリングしたりして情報を蓄積すること。それが後に卒業研究論文の執筆、保健体育授業やスポーツ指導の実践力、教員採用試験の合格や望ましい就職につながる。			
回	テ　ー　マ	授　業　の　内　容	予習・復習
1	オリエンテーション 及び個別面談	・本演習の概要説明 ・個別に学業等に関する面談を実施	予習：前学期の省察 復習：個別面談内容を基に本学期の取り組みを立案
2	前学期の省察と本学期の目標設定	前学期の省察を行い、それを基に本学期の目標を設定する。	予習：前学期の省察と本学期の目標設定の下書き 復習：本学期の目標設定の清書
3	哲学的対話という方法 IA	超ディベート（共通了解型志向型対話）の実践 IA (テーマ：体育やスポーツに限定しない広い範囲での関心について)	予習：『はじめての哲学的思考』を通読 復習：図書の「はじめに」と「おわりに」を再読
4	レジュメの作成 IA	主張の抽出と思考の言語化 IA (レジュメの作成指導)	予習：論文を検索し通読 復習：キーワード再設定のち再検索
5	指導案の作成 IA	授業/指導計画と種目の教材化 IA (実技指導の立案)	予習：学習指導要領を通読 復習：種目別に段階的な実技指導法を調べる
6	テーマ研究①	担当者が設定したテーマに基づいて発表 (テーマ：現代におけるスポーツの位置づけ)	予習：レジュメの初作成 復習：発表時に受けた指摘をもとにレジュメ添削
7	テーマ研究②	担当者が設定したテーマに基づいて発表 (テーマ：スポーツのこれまでとこれから)	予習：テーマに適した資料選定、レジュメ作成 復習：キーワード再設定
8	実技指導研究①	種目を設定し担当者が模擬授業/指導を展開 (種目：ボールゲーム)	予習：種目のルール確認、担当者は指導案作成 復習：種目の特性を見直し
9	テーマ研究③	設定したテーマに基づいて担当者が発表 (テーマ：運動部活動に関する問題)	予習：テーマに適した資料選定、レジュメ作成 復習：キーワード再設定
10	テーマ研究④	設定したテーマに基づいて担当者が発表 (テーマ：体育の授業の最前線)	予習：テーマに適した資料選定、レジュメ作成 復習：キーワード再設定
11	実技指導研究②	種目を設定し担当者が模擬授業/指導を展開 (種目：陸上競技関連)	予習：種目のルール確認、担当者は指導案作成 復習：種目の特性を見直し
12	授業内小テスト	教員採用試験過去問、スポーツ・運動指導関連問題	予習：指定された範囲を学習 復習：間違い箇所の復習
13	テーマ研究⑤	設定したテーマに基づいて担当者が発表 (テーマ：スポーツに関する仕事、都市型スポーツ、オリンピックの肯定論と批判論)	予習：テーマに適した資料選定、レジュメ作成 復習：キーワード再設定
14	実技指導研究③	種目を設定し担当者が模擬授業/指導を展開 (テーマ：ニューススポーツの教材化)	予習：種目のルール確認、担当者は指導案作成 復習：種目の特性を見直し
15	まとめ	本学期授業のまとめと長期休暇の課題	・各自設定した研究テーマや作成した指導案の省察

授業外における学修及び学生に期待すること			
授業外における学習 ：様々なスポーツについて、興味関心をもって観察し、各スポーツの特性や可能性を考える習慣ができるように、授業外でスポーツ現場やテレビ等の様々なメディアを活用して情報収集を行ってほしい。			
学生に期待すること ：「受講規則」と「挨拶・礼儀」「時間厳守」「整理整頓」の基礎事項を遵守し、主体的・積極的にゼミの活動に取り組んでほしい。授業を欠席する場合は、事前に連絡をするようにしてほしい。スポーツによる外傷・障害のある場合は、初期評価・相談が可能なので、気軽に相談をしてほしい。 筆記用具を毎回必ず持参してほしい。			

回	テ　マ	授　業　の　内　容	予習・復習
1	オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・演習授業の進め方についての説明 ・メディアリテラシー（連絡網作成） ・自己紹介&他己紹介 	予習：シラバスを熟読し理解する 復習：受講規則の確認
2	ウォーミングアップとクールダウン	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションワーク（情報交換） ・メディアリテラシー（メール設定） ・ウォーミングアップとクーリングダウン 	予習：ウォーミングアップとクーリングダウンについて調べる 復習：実際に、運動の前後で実施する
3	新体力テスト①	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションワーク（得意なスポーツ） ・メディアリテラシー（文字入力） ・新体力テストの意義と実践 	予習：新体力テスト実施要項の確認 復習：テスト結果をもとに体力向上のための生活習慣を整える
4	新体力テスト②	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションワーク（簡易ゲーム） ・メディアリテラシー（タイピング練習①） ・新体力テストの実施と記録① 	予習：測定手順の確認と身体づくり 復習：テスト結果をもとに体力向上のための生活習慣を整える
5	新体力テスト③	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションワーク（心理ゲーム） ・メディアリテラシー（タイピング練習②） ・新体力テストの実施と記録② 	予習：測定手順の確認と身体づくり 復習：テスト結果をもとに体力向上のための生活習慣を整える
6	ターゲット型スポーツ体験①	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションワーク（準備体操） ・メディアリテラシー（アプリ活用①） ・アカデミックライティング ・ターゲット型スポーツ体験 	予習：ターゲット型スポーツについて調べる 復習：実際にターゲット型スポーツを体験する
7	ターゲット型スポーツ体験②	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションワーク（ディスカッション） ・アカデミックライティング ・メディアリテラシー（アプリ活用②） ・ターゲット型スポーツ体験 	予習：ターゲット型スポーツについて調べる 復習：実際にターゲット型スポーツを体験する
8	e スポーツ体験①	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションワーク（ディスカッション） ・メディアリテラシー（エクセル計算①） ・e スポーツ体験（国体種目） 	予習：e スポーツの国体種目を調査 復習：勝ちパターンの立案
9	e スポーツ体験②	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションワーク（e スポーツ） ・メディアリテラシー（エクセル計算②） ・e スポーツ体験（海外の e スポーツ） 	予習：海外の e スポーツを調査 復習：勝ちパターンの立案
10	e スポーツ体験③	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションワーク（接客） ・メディアリテラシー（エクセル統計・基礎①） ・e スポーツ体験（HADO） 	予習：HADOについての調査 復習：連携プレーの立案
11	車いすスポーツ①	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションワーク（共有ゲーム） ・メディアリテラシー（エクセル統計・基礎②） ・車いすスポーツ体験 	予習：車いすの構造を理解する 復習：車いすの各種スポーツについて調査
12	車いすスポーツ②	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションワーク（ミーティング） ・メディアリテラシー（図の作成） ・車いすスポーツ体験 	予習：各種スポーツのルールを調査 復習：車いすスポーツの映像を視聴
13	専門スポーツ体験①	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションワーク（交流） ・アカデミックライティング ・専門スポーツ体験（選択制） 	予習：選択した専門スポーツについての調査 復習：選択したスポーツの映像を視聴
14	専門スポーツ体験②	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションワーク（交流） ・アカデミックライティング ・専門スポーツ体験（選択制） <p>※課題レポート（提出期限：15回授業の前日）</p>	予習：選択した専門スポーツについての調査 復習：選択した専門スポーツの実践
15	総合復習	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションワーク（交流） ・課題レポートのフィードバック ・総合復習 	予習：これまでの活動を振り返る 復習：積極的に各種スポーツに挑戦する

回	テ　ー　マ	授　業　の　内　容	予習・復習
1	オリエンテーション	教員ならびに学生の自己紹介を行い、専門演習の進め方について説明する。ゼミ担当教員と相談しながら、各自の目標設定について確定する。	予習：シラバスを読む 復習：目標設定
2	マラソン大会におけるスポーツツーリズム（1）	「前学期の省察」と「本学期の目標設定」について面談を実施する。	予習：文献を読む 復習：目標設定と修正
3	マラソン大会におけるスポーツツーリズム（2）	「する」、「みる」、「ささえる」スポーツツーリズムとしてのマラソン大会について討論する。	予習：文献を読む 復習：目標設定と修正
4	マラソン大会におけるスポーツツーリズム（3）	「する」、「みる」、「ささえる」スポーツツーリズムとしてのマラソン大会について討論する。	予習：文献を読む 復習：目標設定と修正
5	フィールド調査の準備（1）	フィールド調査（予行）の対象について、相互に討論して、各自調査したいテーマを決定する。	予習：調査対象について調べておく 復習：目標設定と修正
6	フィールド調査の準備（2）	フィールド調査におけるデータ収集方法（アンケート、参与観察、インタビュー）について学ぶ。	予習：文献を読む 復習：調査票の作成
7	フィールド調査の準備（3）	校内でアンケート調査、参与観察、インタビュー調査を行練習する。5月末にフィールド調査を行う（暫定）。	予習：調査計画を立てる 復習：調査票の精査
8	調査結果のまとめ（1）	フィールド調査を振り返り、ICTを活用したデータの整理・分析について学ぶ。	予習：文献を読む 復習：データの整理
9	調査結果のまとめ（2）	質的データ分析の基礎について学ぶ。	予習：文献を読む 復習：データ分析の応用
10	調査結果のまとめ（3）	量的データ分析の基礎について学ぶ。	予習：文献を読む 復習：データ分析の応用
11	研究レポートの作成（1）	研究レポートの作成要領を把握する。	レポート執筆
12	研究レポートの作成（2）	研究レポートを作成、修正する。	レポート執筆
13	研究レポートの作成（3）	研究レポートを作成、修正する。	レポート執筆
14	研究結果の発表	作成したレポートをもとに、プレゼンテーションを行う。	予習：口頭発表の準備 復習：口頭発表の反省
15	まとめと展望	各自が本学期の調査を振り返り、後期の本調査に向けて検討する。	本学期の成果の確認

回	テ　ー　マ	授　業　の　内　容	予習・復習
1	演習内容の確認 研究方法の解説	ガイダンス（演習内容の把握）を実施。 また、博物館および地域文化資源をテーマとした研究の方法について講義を行う。	予習：シラバスおよび教養セミナーBで配布されたフィールドワークについてのレジュメを再確認 復習：フィールドワーク予定地の考案
2	前学期の省察と本学期の目標設定	前学期の学習成果を省察し、本学期の個人目標設定のための面談を実施。	予習：前学期の省察と本学期の目標設定の下書き 復習：本学期の目標を設定し、用紙にまとめる
3	事前学習①	ゼミ内でグループワークを行い、フィールドワーク実施地を選定する。（宮地区あるいは吉井町内）併せて、調査方法についても検討する。	予習：フィールドワーク調査方法の考案 復習：調査方法の再検討
4	事前学習②	フィールドワーク予定地に関する文献調査を行い、各個で調査内容を明確化する。 具体的には、歴史的環境・地理的環境などの各分野を割り振り、文献調査を基に後日発表する。	予習：図書館の使い方を再確認 復習：必要に応じて文献調査を再度実施
5	事前学習③	文献調査の成果をまとめ、プレゼンテーション用の資料（パワーポイント、配布資料）を作成する。	予習：調査した文献の確認 復習：発表用資料（PPT）、配布資料の完成
6	事前学習④	文献調査の成果をゼミ内で共有するため、プレゼンテーションを実施。	予習：発表練習 復習：発表内容、発表方法の振り返り
7	フィールドワークの準備	地図を基に具体的な調査方法を検討し、同時に日程・持参物等について確認する。	予習：各人の役割分担の再確認 復習：準備事項の確認
8	フィールドワーク	5月下旬～6月中旬に、日帰りで地域文化資源のフィールドワークを実施する。（学外授業、調査日は天候等によって変更となる可能性あり。）	予習：フィールドワーク予定地および調査方法の再確認 復習：調査成果の見直し
9	整理作業①	フィールドワークで得た成果を記録し、活用できるようにする整理作業を行う。	予習：調査成果の再確認 復習：作業結果の記録
10	整理作業②	フィールドワークで得た成果を記録し、活用できるようにする整理作業を継続して行う。	予習：調査成果の再確認 復習：作業結果の記録
11	整理作業③	フィールドワークで得た成果を記録し、活用できるようにする整理作業を完了する。	予習：調査成果の再確認 復習：作業結果の記録
12	展示構想①	ゼミ内でグループワークを行い、展示のテーマ・内容・展示方法を選定する。また、各項目の役割分担を行なう。	予習：博物館を見学してパネルを写真撮影 復習：パネル・ポスター案の検討
13	展示構想②	ゼミ内でグループワークを行い、展示に使用するパネルや題籠、ポスター等について検討する。	予習：パネル・ポスター案の検討 復習：決定内容の見直し
14	展示作業①	展示構想としてまとめた内容を基に展示パネルやポスター等を作成する。	予習：整理作業の成果の見直し 復習：成果物提出の準備
15	展示作業②	パネルやポスター等を提出し、実際に展示施工を行う。	予習：成果物提出の準備 復習：個人目標の達成状況の確認

回	テ　ー　マ	授　業　の　内　容	予習・復習
1	オリエンテーション	本演習の進め方、評価方法の説明	事前にシラバスをよく読み、学習項目を確認する。
2	前学期の省察	前学期の省察と本学期の目標設定、個人面談	予習) ループリック評価と 読書記録の入力 復習) ループリック評価
3	第1章 敬語コミュニケーションとは	1.1 敬語コミュニケーションを考えるための枠組み	予習) 1.1 語彙・漢字チェック 復習) 練習問題
4	第1章 敬語コミュニケーションとは	1.2 敬語コミュニケーションの前提となる考え方	予習) 1.2 語彙・漢字チェック 復習) 練習問題
5	第2章 敬語の体系	2.0 敬語の体系	予習) 2.0 語彙・漢字チェック 復習) 練習問題
6	第I部基礎編 第1章 高くする敬語 1-1 高くする敬語(1)	1-1 高くする敬語(1) 尊敬語について	予習) 1-1 語彙・漢字チェック 復習) 練習問題
7	第I部基礎編 第1章 高くする敬語 1-1 高くする敬語(1)	1-1 高くする敬語(1) 尊敬語について	予習) 1-1 語彙・漢字チェック 復習) 練習問題
8	第I部基礎編 第1章 高くする敬語 1-2 高くする敬語(2)	1-2 高くする敬語(2) 謙譲語 Iについて	予習) 1-2 語彙・漢字チェック 復習) 練習問題
9	第I部基礎編 第1章 高くする敬語 1-2 高くする敬語(2)	1-2 高くする敬語(2) 謙譲語 Iについて	予習) 1-2 語彙・漢字チェック 復習) 練習問題
10	復習	尊敬語と謙譲語の実践練習	予習) 実例検索 復習) 練習問題
11	第I部基礎編 第2章 改まりを示す敬語	謙譲語 II (丁重語)	予習) 2章語彙・漢字チェック 復習) 練習問題
12	第I部基礎編 第2章 改まりを示す敬語	丁寧語・美化語	予習) 2章語彙・漢字チェック 復習) 練習問題
13	第I部基礎編 第2章 改まりを示す敬語	丁寧語・美化語	予習) 2章語彙・漢字チェック 復習) 練習問題
14	復習	謙譲語 II (丁重語)・丁寧語・美化語の実践練習	予習) 実例検索 復習) 練習問題
15	総合復習	尊敬語・謙譲語 I・謙譲語 II・丁寧語・美化語の総合的な復習	予習) 実例検索

授業科目(ナンバリング)	専門演習 IA(CF201)			担当教員	相羽 枝莉子										
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・前期	必修・選択	必修								
授業のねらい						アクティブラーニングの類型									
スポーツ心理学の専門テキストの輪読を通して、メンタルトレーニング、コーチングに関するスポーツ心理学の基礎知識を理解することを目的とする。また、これらの基礎的知識をもとにスポーツの現場に出向き、そこで発見した課題について、解決に向けたディスカッションを行う。						①⑤⑩									
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標			評価手段・方法	評価比率										
専門力															
情報収集、分析力	スポーツ場面における心理的要因を中心に、客観的な根拠を基に自分の考えを理論的に展開することができる。			プレゼンテーション資料レポート	20% 20%										
コミュニケーション力	スポーツ心理学の基礎知識について説明することができる。 スポーツ現場における心理学的課題について自身の意見をまとめ、ディスカッションに積極的に参加し、発表をすることができる。 ボランティア活動に積極的に参加し、活動することができる。			プレゼンテーション活動の参加度	30% 30%										
協働・課題解決力															
多様性理解力															
出席				受験要件											
合計				100%											

評価基準及び評価手段・方法の補足説明

プレゼンテーション資料（評価比率:20%）：プレゼンテーションの担当箇所の内容を理解し、要約できているかを評価する。

レポート（評価比率:20%）：スポーツ現場での課題とその解決策について、専門用語を用いてまとめることができているかを評価する。

プレゼンテーション（評価比率:30%）：担当箇所に記載されている知識の把握のみならず、周辺領域に関する知識を把握した上で、理論的に説明できているかを評価する。

・授業への参加度（評価比率:30%）：授業内のディスカッションおよび学外活動に対して積極的に参加しているかを評価する。※プレゼンテーションおよびプレゼンテーション資料については、授業内でフィードバックを行う。

授業の概要

前半は、テキストの輪読を通してスポーツ心理学の基礎知識を幅広く学ぶ。各章の担当者を決定し、担当者は事前にテキストを精読・要約し、プレゼンテーション資料を作成する。作成した資料をもとにプレゼンテーションを行い、授業内でディスカッションを行う。課題の提出およびレポートの共有は、ポートフォリオを通じて行う。

後半は、メンタルトレーニングに関する基礎知識を習得し、実践活動への応用を通じて、課題発見・解決についてディスカッションを行う。

なお、当該授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。

教科書・参考書

教科書：使用しない

参考書：中込四郎他『よくわかるスポーツ心理学』ミネルヴァ書房、2012

指定図書：日本スポーツ心理学会（編）『スポーツメンタルトレーニング教本 三訂版』大修館書店、2016

授業外における学修及び学生に期待すること

スポーツ心理学に興味を持ち、普段から自分の専門種目や興味関心のある競技種目、日常生活における心理的要因について知識を深めること。また、学外活動では、地域の方々から学ぶ者として謙虚な姿勢を忘れず、挨拶・言葉遣い、身だしなみ等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて臨み、時間厳守や報告・連絡・相談に努めること（なお、活動にかかる交通費は原則自己負担）。活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守ること。

※本演習を選択する者は、スポーツツーリズムコースを履修することが望ましい

回	テ　マ	授　業　の　内　容	予習・復習
1	オリエンテーション	授業の進め方、輪読担当箇所の決定	シラバス及び参考書の確認
2	前学期の省察と本学期の目標設定	授業担当教員と相談しながら、前学期の省察を行い、それを基に本学期の目標設定について確定する	予習：前学期の省察と本学期の目標設定の下書き 復習：本学期の目標設定の清書
3	輪読（1）	スポーツ心理学の基礎知識（1）	予習：担当箇所の精読・要約・レジュメを作成する
4	輪読（2）	スポーツ心理学の基礎知識（2）	予習：担当箇所の精読・要約・レジュメを作成する
5	輪読（3）	スポーツ心理学の基礎知識（3）	予習：担当箇所の精読・要約・レジュメを作成する
6	スポーツボランティア活動	スポーツボランティア活動に参加し、心理学の観点から課題を発見する	予習：ボランティア受け入れ先のチームについて調べる
7	リフレクション	スポーツボランティア活動を振り返り、課題解決に向けたディスカッションを行う	予習：活動内容をまとめる
8	輪読（4）	スポーツ心理学の応用（1）	予習：担当箇所の精読・要約・レジュメを作成する
9	輪読（5）	スポーツ心理学の応用（2）	予習：担当箇所の精読・要約・レジュメを作成する
10	輪読（6）	スポーツ心理学の応用（3）	予習：担当箇所の精読・要約・レジュメを作成する
11	スポーツ現場への応用	ジュニアスポーツ競技者へのメンタルトレーニングを参観する	予習：メンタルトレーニングに関する知識について予習する
12	スポーツ現場への応用	ジュニアスポーツ競技者へのメンタルトレーニングのプログラムを作成する	予習：メンタルトレーニングのプログラムを考える
13	スポーツ現場への応用	作成したメンタルトレーニングのプログラムを実践する	復習：活動内容を報告書にまとめる
14	スポーツ現場への応用	作成したメンタルトレーニングのプログラムを実践する	復習：活動内容を報告書にまとめる
15	リフレクション	メンタルトレーニングの実践を振り返り、課題解決に向けたディスカッションを行う	予習：振り返り課題のレポートを作成する